

町田市議会議員・3 期連続トップ当選

吉田つとむ

良識ある保守主義を目指す

〒194-8520
東京都町田市
森野2-2-22
☎042-724-2171
町田市議会
「保守の会」



保守の会会派所属議員

生産年齢人口論は破綻した②

世間では、生産年齢人口（15 歳～65 歳未満）の減少が声高にさげばれていますが、一般には生産年齢人口と呼ばれない年齢（65 歳以上）の人たちが多数働いて社会を支えている姿が目立っています。中には、70 歳を超えた世代が 40-50 歳台を実質的に扶養している実情が現れています。そこで、私は早い時期から「生産年齢人口」という用語はナンセンスであり、町田市が用いるべきではないと主張してきました。今回の質問で、町田市民に関して、その年齢（65 歳以上）で年代別に被扶養者となっていない人数（比率）を尋ねました。町田市は市民税納入の立場から個別に情報はありますが、その比率の集約は行っていないと答えました。私は、政府なども労働力の高齢者就労の増大を求めており、市行政として市内の労働人口や扶養・被扶養状況の把握し、多数の高齢者に働く環境づくりをし、産業施策に活かすことが必要だと述べました。

次いで、町田市役所ではどのような就労体制になっているかを問いました。すると、60 歳までの就労で定年、61 歳～65 歳を再任用職員、65 歳以上を臨時職員・嘱託職員として採用していることがわかりました。公務員社会でさえ、65 歳以上の就労が生じていることが明らかになりました。

政府では、在職すると年金受取り額が減少する制度（在職年金制度）を廃止して高齢者就労を進める方針を明らかにし、政権政党の自民党は高齢者就労を促進する目的で社会保険加入化（勤労者皆社会保険）をようやく提起しました。就労世代の幅が大きく拡大していくのは確実な時代になります。

町田が誇るべき地元遺跡からの工芸品

町田市内（成瀬）の古代遺跡から発見された土器や耳飾り等の展示会があり、先輩市議会議員であり、郷土史研究家でもある「中里いー」元議長から、詳しく説明をいただきました。

発見当時は日本最古級の土器（希少品：レプリカ展示）とされていた「隆起線文土器」縄文草創期（14000 年前）を初めとして、多数展示されていました。中には、透かし彫り土製耳飾り一式の作品群がありました。それらは、「なすな原遺跡」（南成瀬八丁目）から発見された縄文時代晩期の作品で、町田市の HP には、「精巧な透かし彫りが施されています。ピアスのように耳にはめたと推定されます。」と記載され、配布資料では、透かし彫り土製耳飾り一式（12 点）、縄文晩期前半約 2800 年前とも書かれており、最初は小さなものを後から大きいものを順次取り換えるようでした。その透かし部分がとても精巧に作られ、更に感心しました。

こうした芸術性を感じさせる土器を郷土の先人が作っていたことに驚嘆する次第であり、現在と後世の市民に伝えるべき、価値ある地元の歴史文化の工芸美術品だと思っています。



★ 政党は無所属・市議会会派は保守の会 総務常任委員会に所属

URL <http://j-expert.jp/> ユーチューブ <http://jp.youtube.com/yoshidaben>



編集者 〒194-0011 町田市成瀬が丘 1-14-12 サンホワイト E103-13 吉田つとむ（自宅）

町田市議会議員 議会報告

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



携帯QRコード
でブログ閲覧



ビッグサイト見学：紙の梱包材

東京ビッグサイトを訪れ、Japan IT Week 春 2019 後期の展覧会を見学しました。通販事業用の機器展示部門があり、気泡緩衝材を造る装置の海外メーカーのコーナーがありました。気になって足を止めました。

私が仕事で気泡緩衝材（プチプチの名称で知られる）を手にしたのは、今から 50 年も前のことでした。当時、宇部興産が製造を手掛けたもので、エアークアップの商号で販売されました。私は博多人形を販売・卸を行う会社で働いていましたが、その会社は経営者が新しもの好きでした。製品の梱包材には当時まで木毛＝糸状に切り込んだ木くずを使用していましたが、梱包に際して木くずの粉が飛び散ることを避けたいと願って、このエアークアップ＝気泡緩衝材を業界で最初に導入したものです。ただし、1 社でスタートしたのではなく、他に 2 社ほどが一緒に参加した記憶があります。不規則な形をした博多人形の梱包自体が難しいのですが、現場で作業をする人には大変好評でした。*もちろん、当時、木毛の扱いを一掃できるまでは至



ドイツが環境分野で、日本より進んでいるのは確実ですね。

りませんでした。

昨今では、プラスチックの使用、廃棄が大きな問題となっており、上記の気泡緩衝材の是非が問われる時代になりました。

この製造機を展示していたストロパック ジャパン株式会社（本社：ドイツ）では、段ボール製、あるいは紙製の緩衝材製造機を展示していました。スパイラル状の紙筒になった緩衝材が出てくる形になっていました。日本では段ボール製の茶色っぽい色が好まれず、「白色」が多く取り入れられているとのことでした。写真は、同行したインターン生と一緒に、社長さんと記念写真を撮影。

出雲と町田の観光の共通点は

総務常任委員会（岩瀬和子委員長）は、5 月中旬に地方視察を実施し、すでに視察報告書の提出を済ませています。その中で施策に関する点で、気になる点の一つが以下のことでした。

出雲大社を擁する出雲市には、年間 1000 万人が訪れますが、宿泊者はその 1 割（100 万人程度）ということでした。それでも町田市にとっては、とてもうらやましい人数の宿泊者数です。町田市は多額の建設費を充てて、複数の観光施設を整備中ですが、それで市内の宿泊者数の増加になるとは思えません。町田に複数の魅力を持ったスポットができない限り、無駄な投資になると思います。



出雲大社前で撮影
庁舎内で質疑応答

★ 吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

★ 市政、市議会に関するご質問やご要望は、電話、FAX、電子メールでお寄せください。

Mail: yoshidaben@gmail.com

町田市議会議員・納税者主権

吉田つとむ

若い世代のために全てをささげる

町田市議会

〒194-8520

東京都町田市

森野2-2-22

☎042-724-2171

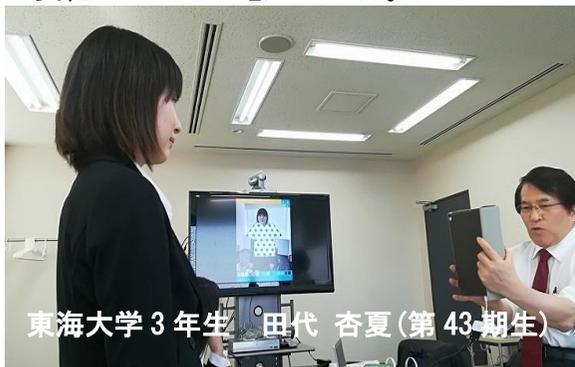
保守の会会派室



開かれた町田市議会

研修レポート⑧田代 杏夏

今回訪問した「東京書籍」は、小・中・高等学校用の検定教科書のほとんどの科目を編集、発行しています。教科書以外にも指導用教材や参考書、ビデオなどの映像教材の開発も行っています。また、学力検査などの評価システムや ICT 教材の開発も行っています。今回は主にデジタル教材についてお話を伺いました。デジタル教材は今までの紙媒体の教材にはできなかったことができるようになります。デジタル教材の大きな利点のひとつは写真の代わりに動画を見られることです。音声も流すことができます。写真を見るよりもわかりやすく理解が深まります。何より子どもたちの印象に残ると思いました。他にも教科書に載っている問題を解いてその場で答え合わせができ何度も解き直すこともできます。また AR を用いた教材も実際に見せていただきました。見せていただいたのは数学の教材で、紙の教科書にスマートフォンをかざすと画面上に立体的な図形が現れました。動かすことができ、いろんな角度から図形を見ることができます。来年から新学習指導要領になり英語とプログラミングの授業が新たに加わるそうです。教育も教材も時代に合わせて変化していると感じました。



東海大学3年生 田代 杏夏(第43期生)

中学校給食弁当無料試食審議



中学校を訪問し、弁当の保管室を見学

中学校給食の委託業者弁当が生徒さんに人気がない(1割しか利用者は無い、8割が食べたことが無い)というのが町田市の選択式給食の状況です。議会では小学校と同じような中学校給食を求める請願を大多数で否決したことで、保守の会は行政施策の行き詰まりを打開する方法を、新年元旦より「中学校給食の無料試食実験」として提唱したことを地元紙「武相新聞」への意見広告として公表しました。次いで、第1定例会の代表質疑(白川幹事長)でそれを町田市が実施することを求めました。その後、「無料試食、アンケート実施等」を求める請願が審議され、本会議でも採択としました。

町田市の教育委員会は、この6月定例会に1週間+2日の「無料試食会」(約7千7百万円)をメインとして予算案を提起し、全会派(5人)が本会議で質疑する必要性がもたらされました。保守の会では、吉田が質疑を担当し、実施方法、提供食材内容、その後の課題などを幅広く質しました。もとより、今回の行政施策は、保守の会がいち早く提唱したことであり、その実施に期待を持ちます。

★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> ユーチューブ <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集者 〒194-0011 町田市成瀬が丘1-14-12 サンホワイトE103-13 吉田つとむ(自宅)

町田市議会議員 議会報告

吉田つとむ

若者育成の街・交通文化都市



左上はブログ
右上は新規の
ビジュアルサイト



人に親しまれる議会に

研修レポート⑧ 長井健太

東京都心・浜松町と羽田空港を結ぶ東京モノレールに試乗しました。町田方面への延伸計画が進められている多摩都市モノレールと同様に、桁の上を車両が走る方式の路線です。



***上の写真は、モノレールの車両内で相互に撮影したものです。向かい合って座っているわけではありません。**

各駅停車しかない多摩都市モノレールとは異なり、東京モノレールには各駅停車のほか2つの快速があります。空港までノンストップの「空港快速」と、空港以外のいくつかの駅に止まる「区間快速」があり、試乗ではこの2種類の快速と各駅停車の全てに乗車しました。

資料によれば、最高速度は時速 80km、距離を所要時間で割った標定速度は空港快速で時速 56km、各駅停車でも時速 45km あり、多摩都市モノレールの時速 27km と比べると大きな差があります。実際に乗車した際にも、併走する高速道路の車を追い越すほどのスピードで走っており、車両の揺れとともにそのスピード感を実感することができました。

また、途中の昭和島駅に設置された追い越し設備を活用して、空港快速は各駅停車を追い越すダイヤになっていました。空港へ急いでいく人と沿線に住む人の、双方の利便性を考慮した柔軟な運行が行われているように感じました。

現在発行されている資料では、多摩都市モノレール町田延伸後の町田から立川までの所要時間は約 52 分となっており、JR 線利用(八王子経由)とほぼ差がありません。延伸事業の意義として「多摩地域の都市間交流促進」を挙げるのであれば、快速列車の運行などによるスピーディな移動方法の提供が必要であるように思います。

首都大東京 3 年生 長井健太(第 43 期生)

●吉田つとむは、多摩都市モノレールの町田延伸を一貫して主張していますが、町田市内の小山田・忠生、市内中心部への鉄道利用を開発する意味において利便性が高いと考えてのことです。町田市と多摩市・立川市との連携では、モノレールの高速運転はこれからの課題になってくると思います。東京モノレールの快速運行の増大は、他の空港乗り入れ鉄道との競合によって促進したものです。



★ 吉田つとむのインターンシップは 1998 年に開始、町田市役所のインターンシップ受け入れや、中学生の職場体験に先行実施

★ 大学生・院生を対象に、議員活動に同行することを通じて社会勉強を支援しています。

インターン希望の方、関心がある方は、ホームページの掲載要旨をご覧ください。